

教 科	科 目 名	単 位 数	学 年	学 科 または コ ー ス	履 修
農 業	畜 産	2	2	生物生産科	選択

(1) 科目のねらい、使用教材など

科目の ねらい	家畜の飼育管理に必要な知識と技術を習得し、家畜の特性や飼育環境を理解する。また、学習を通して家畜に対する興味関心を高め、命の尊さを学ぶ。				
使用教材など	畜産（実教出版）				

(2) 年間予定

期	月	時数	学 習 内 容	学 習 の ポ イ ン ト
一 学 期	4 5 6 7	2 4	1. 家畜の飼育 養鶏について 牛の見方について 実習 (一般管理、乾草調製等)	○鶏の飼育の仕方を学習し、理解する。 ○学習したことを実習で活かし、鶏を飼育する。 ○家畜審査に向け、牛の見方を学習し、良い牛を見分けられるようにする。
二 学 期	8 9 10 11 12	2 8	2. 日本の畜産の特徴と役割 3. 家畜の生理・生態と飼育環境 4. 家畜と飼料 実習 (一般管理、乾草調製・収納、敷料収納等)	○畜産の役割と特色について学ぶ ○畜産物の需要の動向について理解する。 ○家畜に適した飼育環境や施設について理解し、それを実践、習得する。 ○家畜の病気と衛生について理解する。 ○実習を通して家畜の生理・生態を学び、飼育環境の調節、制御について理解する。 ○畜産の消化器官についての理解をはかると共に、飼料の特性と給与について理解する
三 学 期	1 2	1 2	5. 家畜糞尿の処理と有効活用 実習（一般管理等、雪囲い）	○畜産と環境問題の観点から糞尿処理について学び、考える。

(3) 評価の観点

観 点	a : 関心・意欲・態度	b : 思考・判断・表現	c : 技能	d : 知識・理解
観 点 の 趣 旨	管理作業や座学から畜産に関する技術や知識を得ようとする	目的や場に応じて、仲間と相談しあいながら自分の考えをまとめ行動できる	目的や場に応じた適切な管理作業ができる。	畜産での管理作業をスムーズに行うことができる 畜産に関する知識を身につけ、管理作業と結びつけることができる

主 た る 評 価 方 法	実習態度の観察 記述の点検 (プリント、日誌等)	実習態度の観察	実習態度の観察	実習態度の観察 記述の確認 (プリント・日誌等) 定期テスト
---------------------------------	--------------------------------	---------	---------	---

(4) 評価項目・評価点など

評価項目・学習にあたって・評価点		
①定期テスト	毎学期末に筆記テストを実施します。	50点
②ノート・プリント提出	毎時間の実習の記録をしっかりと書いているか点検します。	10点
③出席状況	休まずに毎時間出席しているかを評価します。	10点
④実 習	興味・関心を持って実習に取り組んでいるかを評価します。	30点
授業を通して、家畜物の生産から消費までの流れを学び、実習の中でそれに関わります。食料生産の重要性、命の大切さを考えてみましょう。 大動物の管理には危険が伴います。安全に作業を進めるために、実習の際には実習着の正しい着用と指示をしっかりと聞くことを徹底してください。		